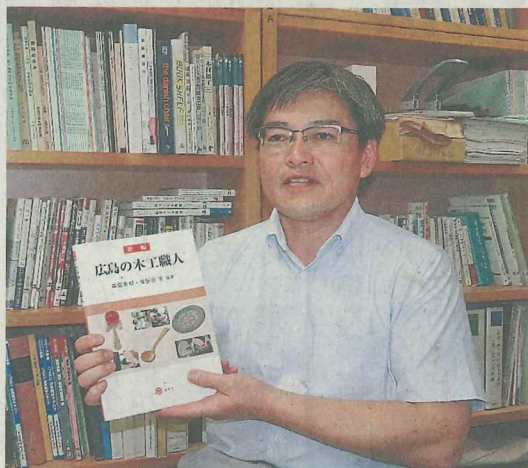


広島の木工職人の技紹介

広島工業大（広島市佐伯区）建築デザイン学科の森田秀樹教授（55）が、県内で活躍する木工職人の伝統技法などを紹介する本「新編 広島の木工職人」（海青社）を出版した。木工産業を支える職人の名前と技術を後世に残そうと執筆した。



「地域で活躍する木工職人を知ってもらいたい」と語る森田教授

広島工業大の森田教授が本出版

2020年に前編「広島の木工職人」を編んだ広島大名誉教授の番匠谷薫さん（75）
〓呉市〓との共著。1部では文具や玩具など15ジャンルの生活小物112点を写真付きで紹介する。重要な工程を4枚の連続写真で記録したほか、職人の人柄にも迫った。2部は、県の木工産業の過去、現在、未来を考察している。

森田教授はゼミ生と5年間で32人に聞き取り調査をした。道の駅などで手の込んだ作品を発見しては、製作者の取材に向いた。職人の高齢化やプラスチック製品の普及で陰りが見える木工産業への危機感が執筆への思いを強くしたという。

森田教授は「県内で多様な職人が活躍しているのは貴重で、木工産業は地域活性化にもつながる。木工に興味を持ってもらえたら」と語る。B5判、136ページ。2750円。（開沼位晏）